

地域の協議会と連携し、遊休農地を活用 ～イオンアグリ創造株式会社 兵庫三木里脇農場～

経営体の概要

現在：平成28年

基幹作物：露地野菜(キャベツ、はくさい)、施設野菜(ほうれんそう、こまつな、なす、ミニトマト)、ぶどう

経営面積：11ha(うち0.7haが施設野菜(ハウス28棟)、うち0.5haが樹園地)

取組の経緯と経営転換のポイント等

兵庫三木里脇農場は、イオンアグリ創造株式会社が運営するイオン農場の全国で10番目として平成25年2月に開場した。開場に当たっては、里脇地区協議会が地元の調整を行うなど連携し、遊休化していた果樹を抜根してほ場は再整備された。参入当時、露地キャベツのみだった野菜の種類は、現在は施設野菜が導入されるなど種類は増え、安定した用水を利用し野菜の周年出荷を実現している。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

本農場は、イオン農場の職員が各農場で蓄積された技術をいかしつつ、地域の農業改良普及センター等の技術指導を得て、地区の営農にあった栽培につとめている。また、地域とのつながりの中で、野菜栽培農家を紹介してもらい、栽培技術を習得するなどしている。

②単収・品質の向上

イオングループ店舗などから把握される消費者ニーズに応えるため、安全・安心な作物生産に取り組んでいる。取組の一つとして、GAP(適正農業規範・農業生産工程管理)手法を取り入れた農場管理を行い、農業生産活動の各工程で、記録・点検・評価を行い、病害虫の防除、出荷規格にあった作物の生産、適正な肥料などに役立っている。また、ほ場ごとに設置された給水栓を利用し、適時にかん水することにより、安定した単収、品質となるようにつとめている。

③流通・販売の工夫

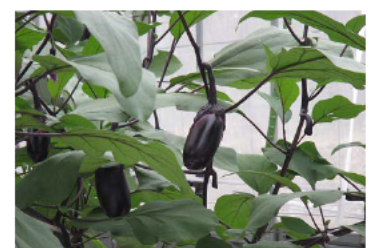
本農場の近傍に、イオングループ店舗が複数ある特徴をいかして、コストの軽減、品質保持をはかるとともに、「今朝採り野菜」として収穫日時を記載した野菜の販売や、規格外品も「わけあり商品」として販売している。出荷に当たりイオン農場は、全国をカバーする自社の流通網をいかして流通コストを低減し、出荷、販売価格を抑えている。



兵庫三木里脇農場
キャベツを栽培しているほ場



なすを栽培しているビニールハウス



ビニールハウス内のなす

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：兵庫県神戸市、明石市、加古川市、三木市、加古郡稲美町

受益面受：7,313ha

事業期間：平成25～33年度

事業目的：用水改良

主要工事：ダム2箇所、揚水機場1箇所、用水路L=14.9km等

位置図(兵庫県)



東播用水二期地区

<問い合わせ先>

近畿農政局 農村振興部
農村環境課 営農担当
電話：075-451-9161
(内線2452)

(平成28年度調査時点)